



経済同友会 元副代表幹事・専務理事、 終身幹事の水口弘一氏がご逝去されました。 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

野村証券副社長、野村総合研究所社長を務められた経済同友会終身幹事の水口弘一氏が2020年1月7日、88歳で永眠されました。バブル崩壊後、日本経済が長期停滞する中で、水口氏は6年間にわたり副代表幹事・専務理事を務め、牛尾治朗氏、小林陽太郎氏の元代表幹事2人を支えられました。また、本会内外から大きな注目を集めた提言『市場主義宣言-21世紀へのアクション・プログラム-』や『21世紀宣言』の取りまとめなどにご尽力されました。

■ 水口 弘一(みなぐち・こういち) 氏 経済同友会歴

1985年8月 入会
 1992年4月～1996年4月 幹事
 1996年4月～2002年4月 副代表幹事・専務理事
 2002年4月～2020年1月 終身幹事

●主な委員会活動

1994年4月～1996年4月 ニュー・ワールド・オーダーと日本の役割を考える委員会 委員長
 1995年4月～2000年4月 諮問委員会 委員長
 1996年4月～1997年4月 広報部会 委員長
 1997年4月～2002年4月 広報委員会 委員長
 2000年4月～2001年4月 「21世紀宣言」起草委員会 委員長



名将・水口弘一氏を偲んで

牛尾 治朗 終身幹事 元代表幹事(ウシオ電機 取締役会長)

水口さんが経済同友会の活動に参加したのは、プラザ合意のあった1985年、当時は野村証券の副社長でした。速水優代表幹事時代(91～94年度)の年頭見解は、諮問委員会委員長の私が取りまとめ責任者でしたが、『変革へのリーダーシップを一平成5年年頭見解』や、『改革を後戻りさせてはならない—新しい日本経済の創造を目指して—一平成6年年頭見解』は副委員長である水口さんと共に、議論を重ねてまとめたものでした。



全国経済同友会代表幹事円卓会議で麻生太郎経済企画庁長官と談笑(96年)

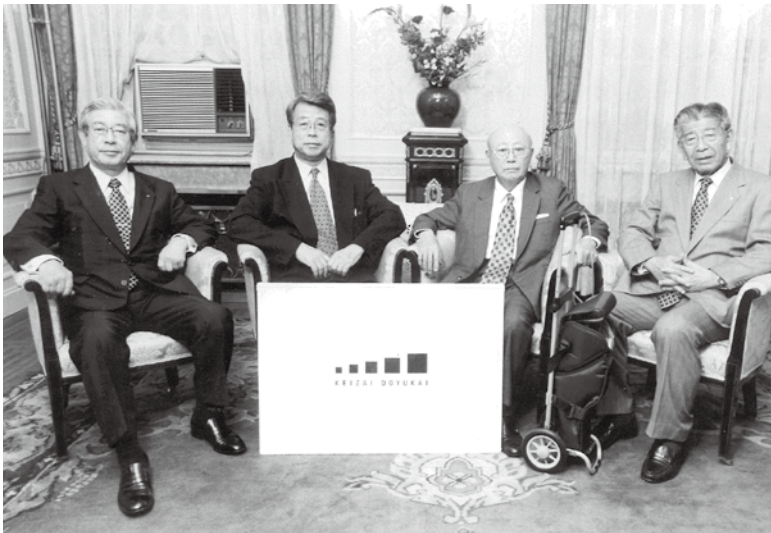
水口さんが還暦を迎える年に、私が年賀状に、『莊子』(雑篇)の一句、キョ伯玉、行年“六十にして六十化す”(賢人キョ伯玉は、六十にして五十九年の非を悟り、さらに、六十化し、日進月歩、進歩する)という句を書いて送ったことを、ずっと心に留めてくださいました。私が代表幹事を退任する99年4月の総会において、この年賀状の句に触れ、「牛尾さんの真骨頂は、まさに六十才にして六十化す。おそらく七十才にして七十化すところにある」とおっしゃっていたことが今も忘れられません。

私が代表幹事(95～98年度)に就任してからは、橋本政権が打ち出した、行政改革、財政構造改革、社会保障構造改革、経済構造改革、金融システム改革、教育改革の「6つの改革」を、水口さんをはじめとする当時の副代表幹事で強力に後押ししました。



通常総会で牛尾元代表幹事と談笑(01年)

時代はグローバリゼーションの進展により従来の日本型システムが国内外から批判され、バブルの崩壊とともに痛みの伴う構造改革は待たなしという状況でした。このような中、資本市場の中で育った水口さんが、まずは「日本の市場経済をアングロサクソン型に大きく振っていかねばならない」「政府の失敗は市場の失敗より大きく、



シンボルマーク導入を機に開催された「経済同友会の今後を構想する」座談会(98年)



通常総会に小渕恵三総理をお迎えして(99年)

市場の失敗はすぐ取り返しがつかないため、政府の知恵よりも市場の効率性や公正さをベースにすべき」、ただし「市場主義の原点には全て人間的な信頼関係が前提でなければならない」といった、まさに私と同様の考え方をもち、提言『市場主義宣言－21世紀へのアクション・プログラム－』を取りまとめてくれました。

その後も一貫した考えの下、小林陽太郎代表幹事を支え、『21世紀宣言』をまとめられました。経済同友会の伝統を守りつつ、現在の潮流を築いたお一人であったことは、言うまでもありません。

教養豊かで、幅広い分野に造詣が深く、非常に勉強熱心だった水口さんは、

有言実行を旨とし、創造的破壊の基には人間相互の信頼がなければならないという信念を持って活動されました。高い志と見識で、当時の政策提言の理論的支柱となって、行動する経済同友会を支えてくれました。

私は、水口さんが副代表幹事・専務理事を退任する際に、「雅望に生きる」という言葉を贈りました。これは、私が安岡正篤先生からいただいた「俗望を捨てて、雅望に生きよ」という言葉を私なりに解釈して、水口さんに贈ったものです。雅望とは、物欲、権力欲、名誉欲といった欲望と対極にある志であり、雅望を持って活躍された水口さんに、ぴったりくる言葉と感じました。「50代は会社のため、60代は日本経済

のため、70代は国のために生きる」と言われていた水口さんの言葉通り、政府の経済審議会、財政制度等審議会、地方制度調査会、税制調査会、地方分権改革推進会議などのメンバーになるとともに、中小企業金融公庫の総裁も務められ、日本経済の発展と国の改革に尽力されました。

激動の時代に、毎日のように議論を重ね、同志として過ごしていた日々が昨日のこのように思い出されます。国際人でもあった水口さんと何度か夫妻で一緒した海外ミッションも懐かしい思い出の一つです。

名将・水口さんとの多くの思い出を胸に、今はただ、心より、ご冥福をお祈り申し上げます。



中央アジアミッションでナザルバエフ・カザフスタン大統領と(99年)



米国競争力評議会との合同会議でワシントンD.C.を訪れた。左から4人目(01年)